

# ふんだりけ 芬陀利華

## ■ 楽曲データ

歌詞：川上清吉 作詞

楽曲：山田耕筰 作曲

発表：仏教讃歌刊行普及会 1952年

初演：—

初出：『BUKKYO SANKA』 佛教讃歌刊行普及會 1952年

管理番号：M1282

## ■ 創作の経緯

戦後まもなく「新しい仏教讃歌を」との趣旨で、西本願寺内に「仏教讃歌刊行普及会」が設立され、1952（昭和27）年、同団体より発表された。

## ■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第2巻収録

底資料：『BUKKYO SANKA』 佛教讃歌刊行普及會 1952年

比較資料：作曲者自筆旋律スケッチ

校訂の詳細：特記事項なし

## ■ 解説

「芬陀利華」とは、白蓮華（びゃくれんげ）のことで、サンスクリット語（梵語）の「プンダリーカ」を音訳したものです。白蓮は、湿地の泥沼に育ちます。根を泥のなかにしっかりとおろし、泥水をすいあげてかぐわしい清らかな花を咲かせるのです。

私たちの宗祖親鸞聖人は、ご本典『顕浄土真実教行証文類』において

高原の陸地<sup>ろくじ</sup>には蓮華を生ぜず。卑湿<sup>ひしゅう</sup>の淤泥<sup>おてい</sup>にいまし蓮華を生ず（註釈版聖典319ページ）

と、衆生が抱える煩惱の泥のなかに、如来さまから回向された信心が生ずることをあきらかにされました。

また、いつもお勤めさせていただく「正信念仏偈」のなかにも

一切善悪凡夫人（いとおろかなるものとても）

聞信如来弘誓願（ほとけの誓い信ずれば）

仏言広大勝解者（すぐれし人とほめたまい）

是人名芬陀利華（白蓮華とぞたたえます）

※（ ）内は「しんじんのうた」（「正信念仏偈」意訳）

と記され、お釈迦さまと諸仏が、如来の誓願を聞信して生きる人びとをすぐれた人とたたえ、白い蓮の花のような人とおほめになる、と教えてくださっています。

#### ◆作詞者・作曲者について

以上のようなことをうけて、川上清吉（1856～1959）は《芬陀利華》を作詞しました。

川上は島根県生まれ、浜田第一高校校長、島根大学教授などを務めました。著書には『教育の宗教的反省』『光を聞く』『歎異抄 [ママ] 私解』などがあり、親鸞聖人の教えを現代の人に紹介し、その弘通（ぐづう）に身を捧げた方でした。

作曲者の山田耕筈は、作曲家・指揮者であり、宗門関係学校の相愛大学でも教鞭をとりました。特に歌曲の分野では、日本語の語感とアクセントを尊重した芸術歌曲を生み出しました。《からたちの花》《六騎》《待ちぼうけ》など、作品は今日でも広く愛唱されています。

仏教音楽については、1918（大正7）年、渡米の途中で体調を崩した折に、ハワイ別院に療養したことをきっかけに作曲を行うようになり、《讚仏》《雪とけて》などを遺しています。

#### ◆歌い方について

- ①2/2拍子でゆったりとした曲ですが、リズム感を失わないように。言葉の持つアクセントを大切にしてください。
- ②弱起の曲です（弱拍からはじまる）。スムーズに歌い出せるように、何度も練習してください。
- ③詞は文語で書かれていますので、よく読んで意味を理解しておきましょう。
- ④7・8小節目の下降音型はなめらかに歌いましょう。
- ⑤9・10小節目はフォルテ（強く）ですが、乱暴にならないように気を付けましょう。

#### ◆用途

開扉閉扉・献灯献華のときや、法座聴聞の後に歌うのもよいでしょう。合唱（同声二部もしくは混声四部）で歌うと、ハーモニーの美しさが味わえます。オルガンのみの演奏も効果的です。

原曲の伴奏譜を、そのまま混声四部合唱として歌うことができます。また、同声二部合唱版は『讚歌集 二部合唱』第3巻に掲載されています。

音源は、CD『響流十方』『憶念』をご参照ください。

解説執筆：大分哲照（御堂演奏会指揮者 福岡教区西嘉穂組明圓寺住職）

※本解説は、「メロディーの宝石箱」No. 23（仏教婦人会総連盟機関誌『めぐみ』第148号収録）を加筆・修正のうえ、転載。

Copyright: Jodo Shinshu Hongwanji-ha Research Institute. All Rights Reserved.